



日野市環境情報センター(愛称かわせみ館)は環境に関する情報を収集・分析・発信するために、2005年7月に市民・事業者・学校・行政の協働で開設されました。

水と緑の日野・市民ネットワーク主催シンポジウム「黒川清流公園の自然」が開催されました

9月26日(土) 13:00~16:30、水と緑の日野・市民ネットワーク主催のシンポジウム「黒川清流公園の自然シリーズ③生き物たち」が開催されました。会場は多摩平の森ふれあい館です。黒川清流公園は、日野台地から長い時間をかけて湧き出る湧水群によって、まさにビオトープが形成され、多くの生き物の生息場所となっています。今まで様々な活動を通して愛され、守られてきたことで、生物多様性の宝庫となっているこの自然園の現在について、以下のテーマで講演が行われました。

「黒川清流公園の野鳥たち」：講師 金子凱彦氏(日野の自然を守る会)
岩井満夫氏(七生丘陵調査団)

～黒川清流公園は、渡り鳥の中継点、冬鳥の越冬地、留鳥の生息地など三つの要素があり83種類の野鳥が確認されていることや、ここで繁殖したカワセミの記録などのお話がありました。

「黒川清流公園にかかわる日野の昆虫」：講師 森川正昭氏(日野の自然を守る会)

～黒川清流公園に生息している昆虫を中心に市内で見られる蝶(市内に約70種類)やホテルの仲間、タムシの仲間(42種類)、ウスバカゲロウの仲間(5種類)などについてお話がありました。

「黒川清流公園の水辺の生き物」：講師 古田慎二氏(日野の自然を守る会)

～黒川清流公園の水辺で見られるサワガニ、アメリカザリガニ、ヌマエビ、カワニナなどについての解説がありました。

シンポジウムには約60名の市民の皆さんが参加され、講師の方々のお話を熱心に聞いていました。講演のあと意見交換も行われ、充実した3時間半でした。



大坪市長の挨拶



熱心に耳を傾ける市民の方々

日野市内空間放射能測定3年間の結果がまとまりました～日野市市民環境大学OB会測定～

2011年の東日本大震災により発生した福島第一原発事故で、多量の放射性物質(セシウム137、ヨウ素131)が飛散しました。日野市市民環境大学OB会では、事故発生1年後の2012年3月から有志による空間に浮遊する放射性物質の測定を開始しました。今年2月で測定期間が3年を経過したことから、3年間の測定結果をまとめた報告書を「日野市環境情報センター年報VOL.8」(2015年12月発行予定)に掲載する予定です。

測定にあたって、測定器は日野市で用いられているものと同型の簡易放射能測定器を使用し、測定点は低地の多摩川沿いのA地区6か所、高地のB地区5か所、日野市生活・保健センター前の計12か所を選定しました。A・B地区は隔月、生活・保健センター前は毎月の測定です。

測定結果をみますと、測定開始直後の2012年3月にはA地区で $0.09 \sim 0.10 \mu$ シーベルト/h、B地区で $0.07 \sim 0.11 \mu$ シーベルト/h、生活・保健センター前は2013年5月の測定ですが 0.12μ シーベルト/hでした。その後は2015年2月までA地区は $0.04 \sim 0.09$ 、B地区では $0.04 \sim 0.08$ 、生活・保健センター前は $0.06 \sim 0.11 \mu$ シーベルト/hで推移しています。

日野市が測定している市内の空間放射線量(広報ひの3月15日号)も今年の2月時点で $0.03 \sim 0.08 \mu$ シーベルト/hで、健康に影響を与える数値ではないと分析されています。市民環境大学OB会は今後も慎重な測定を続けていきたいとしています。

なお、測定結果についてのお問い合わせは環境情報センターまでお願いします。

<測定地点>

A地区：仲田親水路
多摩川堤防上
多摩川・老人ホーム北側
精進場
中央公民館イチョウ東側
福祉センター砂場

B地区：中央公園ばら園記念樹
中央公園菊苗育成場横
中央公園広場中央部分
市役所前時計台
神明神社鳥居左側裏手



測定の様子

環境基本計画推進会議グループの紹介 4

日野市では第2次環境基本計画を遂行していくために、みどり、水、ごみ、CO₂の4つの分野で市民と市が協働して取り組んでいます。前回までにCO₂グループ、みどりグループ、ごみグループの活動を紹介してきましたが、今回は4つ目のグループ、水グループの活動の紹介です。

<水グループ>

2011年「第2次環境基本計画」が策定され、第1次環境基本計画での推進・進行管理を行っていく場としての環境市民会議は、環境基本計画の推進・進行管理を明確、具体化するため分野別推進会議と全体の環境基本計画推進会議の体制に代わりました。水グループは環境市民会議水分科会及び第2次環境基本計画ワーキングチーム水分野を前身としたグループです。

水分野の重点施策は、

- 1 水循環に寄与する方策の検討：モデル地区を2ヶ所選定し、降水量・湧水量・地下水位の計測
- 2 用水の価値の保全・創出：用水の多面的な活用、用水カルテの策定
- 3 流域連携による活動の推進：多摩川、浅川の流域市町村、国、都との連携事業実施（年1回）
- 4 水辺に親しむ活動の推進：水辺の楽校による水辺での活動（実施校2校）、水辺の環境教育・学習の実施

の4点です。

水グループでは、これら重点施策の推進・進行管理をベースに月1回のグループ会議を行っています。

1 水循環に寄与する方策の検討、2 用水の価値の保全・創出においては、施策を具体的に実施していくために、市に行政計画の推進・管理では主体性をもってもらい、市職員と市民が議論を深めることが必要です。

いずれにしても市職員と市民がホンネの関係で知恵を出し合い、ともに行動することを通じて環境基本計画の着実な実行につなげていきたいと考えています。

日野市の昆虫たち（その2）

日野の自然を守る会 森川正昭

前回は日野市内の自然環境がこの半世紀の間に大きく変わってしまったことをお話ししましたが、その様な中で、日野市内には現在、何種類位の昆虫が生息しているのでしょうか。

昆虫の種類は非常に多く、現在、日本で記録されて名前がつけられている昆虫は23,000種類程です。東京都では10,200種類程が見つっていますが、その内、比較的よく調べられているチョウ、ガ、トンボ、カミキリ、タマムシについて、東京都で記録された種類数と日野市で記録された種類数を比較してみましょう。

チョウは東京都全体で140種類に対し日野市内に72種類、ガは2,000種類に対し1,000種類、トンボは93種類に対し45種類、カミキリは296種類に対し100種類、タマムシは76種類に対し42種類です。

これからも分かる様に、日野市内では東京都の半数近くの種類が見つかっており、これから推定すると、日野市内には5,000種類程の昆虫が生息しているものと思われます。昆虫の宝庫の高尾山には5,000種類の昆虫が生息していると言われていますが、日野市も高尾山と同様に非常に多くの昆虫が生息しているのです。日野市は、雑木林で被われた多摩丘陵と多摩川や浅川に広がる河川敷、張り巡らされた用水路など、他の地域と比べ変化に富んだ自然環境にあり、それだけ多種多様な昆虫が見られるのです。

<多摩丘陵と多摩川河川敷、互いに違う環境に生息する昆虫たち>

1. 河川敷特有のチョウ

多摩丘陵と多摩川河川敷を見た場合、そこに見られる植物は大きく違います。丘陵地はクヌギ、コナラ、シデなどの雑木林を主体とした緑に被われ、ススキなどの草原はほとんどありません。逆に河川敷には、クヌギ、コナラなどの雑木林はありませんが、ススキ、オギ、チガヤ交じりの草原が広がり、河原特有の植物も多く丘陵地とは明らかに違います。そして、そこに棲むチョウの種類も限られており、河川敷特有の種類も見られます。日野市内でこの5年間に72種類程のチョウを記録（注1）しましたが、その内で河川敷では40種類程の生息を確認しています。その中で、下記の3種類は河川敷特有の種類で丘陵地ではほとんど見ることはありません。これらのチョウの食草のイボタノキ、ススキ、チガヤなどは河川敷に多く、丘陵地ではあまり見られないからです。（次号につづく）

*注1：日野市昆虫誌 I（日野の昆虫調査会2013年）



食草：
イボタノキ

ウラゴマダラシジミ
2016.6.3



食草：
チガヤ、ススキなど

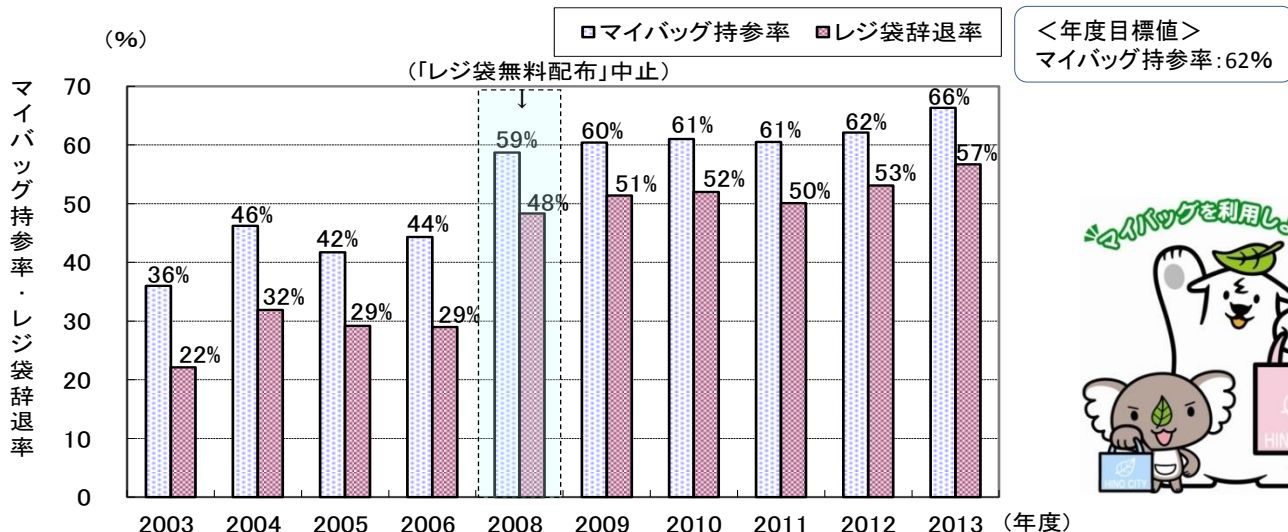
ギンイチモンジセセリ
2013.8.7



食草：
チガヤ、ススキなど

ミヤマチャバネセセリ
2012.4.24

■2013年度日野市環境白書から③ 「マイバッグ持参率、レジ袋辞退率はどのくらい？」



2013年度は、マイバッグ持参率が前年度よりも4.3%高い66.3%、レジ袋辞退率も3.7%高い56.7%でした。市内のスーパーなどと連携し、マイバッグ持参率向上に向けた取り組みと啓発を引き続き進めています。

2008年11月に10事業者、10市民団体、行政などによる「レジ袋無料配布中止に向けた共同会議」が発足しました。この年を境にマイバッグ持参率、レジ袋辞退率が大幅にアップしました。「共同会議」発足前の2006年度と比較すると2013年度はマイバッグ持参率は1.5倍、レジ袋辞退率は2倍になりました。

また、今年の6月に実施した平成27年度「エコキング夏」アンケート調査によると、市内の小学生がいる家庭の79%が「買い物にマイバッグを使いレジ袋をもらわない」と答えています。

■平成 27年度「エコキング夏」の調査結果がまとまりました

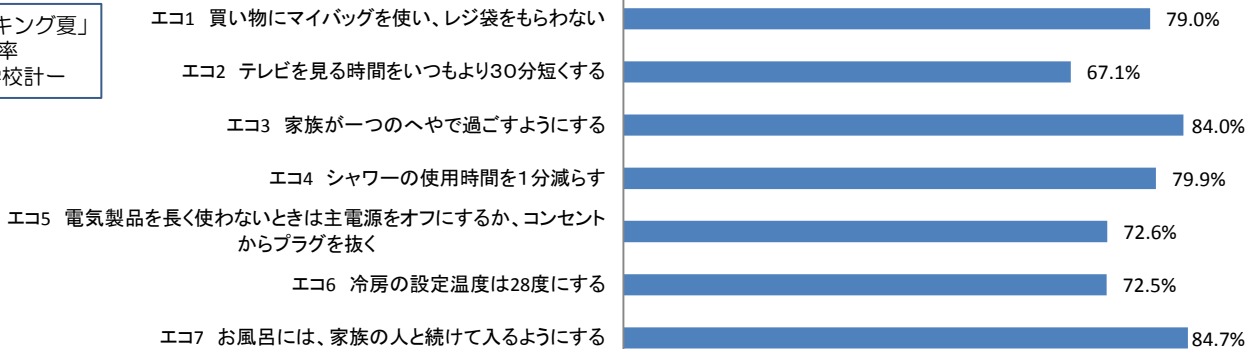
平成27年度「エコキング夏」の調査結果がまとまりました。「エコキング」とは、市内の全小学校にご協力いただき、小学生のいる家庭の夏と冬の“ある1日”のエコ活動を通して、CO₂がどれくらい削減されるかを調査するものです。日野市環境基本計画推進会議CO₂グループ主催で平成18年からスタートし今年で10年目です。

平成27年度夏の調査は6月20日（土）の1日のエコ活動について聞きました。市内の小学生5,022名（5年生は東京都の同様の調査の対象となるため除く）が参加、下記の7つのエコ活動の家庭での実施状況を聞きました。調査の集計結果をみると、全学校計でエコ活動の実施率が最も高かったのは、「エコ7：お風呂には、家族の人と続けて入るようにする」で84.7%、次いで高かったのは「エコ3：家族が一つのへやで過ごすようにする」で84.0%でした。最も低かったのは「エコ2：テレビを見る時間をいつもより30分短くする」で67.1%でした。

7つのエコ活動の実施者数をもとに、6月20日の1日間に全学校計で削減されたCO₂を計算すると、その総量は1,837,952gでテニスコート約7.4面分（注）の森林が1年間に吸収するCO₂の量に相当します。このエコ活動を1年間続けたとしたらこの365日分でテニスコート約2,680面分、これは日野中央公園22,849㎡の約58個分に当たりますが、この面積の森林が1年間に吸収するCO₂が削減されることとなります。日々の小さなエコ活動の積み重ねがCO₂の削減に大きな効果があり、ひいては地球温暖化の防止にもつながります。

（注）CO₂削減量はテニスコート1面（約500㎡）当たりの森林が1年間に吸収するCO₂の量250kgで換算

平成27年度「エコキング夏」7つのエコ活動実施率
—全小学校計—



■7月～9月の活動報告

7月10日 「日野市環境情報センター開設10周年を記念して」発行

環境情報センター開設10周年を記念して、センターゆかりの方の寄稿や支えてくださった市民の皆さんからのメッセージで構成した印刷物を発行。センターに関係の深い方々や会議などでセンターを訪れた方々に配布しました。

8月1日（土） みんなの環境セミナー「向島用水と水車を見る・知る・学ぶ」開催

8月1日（土）10：00～13：00、向島用水親水路にある水車小屋周辺で水車の力や用水の役割について学びました。主催は日野の水車活用プロジェクト。参加者は親子を中心に20名。手作りの発電装置を使った発電実験や水車Pスタッフの指導による水車作りの工作や水車や用水のスケッチ、また、一升瓶に玄米を入れて棒で突っついて精米したり、石臼でお米の粉をひいたりを体験、子どもたちが夢中になってやっていました。用水でのザリガニ採りも楽しみました。



8月7日（金）～14日（金） 「日野の魚たち」写真展開催

6月の「日野の昆虫たち」写真展に続き、「日野の生きものたち写真展」企画第2弾として、市役所1階市民ホールで開催。市内の川や用水に生息する魚たちを36枚の写真で紹介しました。また、見学者の皆さんに協力していただき「日野の魚」を選定する試みとしてアンケートも実施しました。



アユ

キンブナ



9月19日（土） みんなの環境セミナー「虫や風を利用する花たち」開催

9月19日（土）9：30～15.00、会場は「鳥と緑の日野センターwing」。雑木林ボランティア講座の公開講座として毎年開催される人気講座で、講師はフラワーエコロジストの井上肇氏です。受講者は講座生を含め48名。虫や風を利用して受粉するために花がどのように色や形を工夫しているか、スライドなどを見ながら花の形態や各部分の名前を学びました。午後は南平丘陵公園まで散策しながら植物観察も行いました。

＊ ＊10月～12月の行事・イベントのお知らせ＊ ＊

10月24日（土） みんなの環境セミナー「里山づくり」

雑木林ボランティア講座の公開講座。明治大学農学部倉本宣教授による生物多様性の生態系管理が実践されている里山管理についての講演会と神明上緑地などでの植物観察会を行います。10月1日発行の広報「ひの」でお知らせしました。

11月21日（土） みんなの環境セミナー「日野の雑木林は今～雑木林を歩いて考える」

環境基本計画推進会議みどりグループ主催。南平駅から南平丘陵公園、東豊田緑地などを歩いて巡り、ゴールの吹上地区センターで市内の雑木林についてレクチャーがあります。11月1日発行の広報「ひの」でお知らせします。

11月14日（土）、15日（日） 環境フェア「かわせみ館ブース」開設

市民の森・ふれあいホールで産業まつりと同時開催です。

12月3日（木） みんなの環境セミナー「向島用水を見る・知る・探る」

市民環境大学の公開講座。向島用水の整備の経緯や復元された水車の解説、浅川の水質調査や向島緑地での植物観察などを行います。11月15日発行の広報「ひの」でお知らせします。

「ひの緑のトラスト」募金活動にご協力を

百草地区には貴重な雑木林が市民と行政の協働により残されており、市民による保全活動が活発に行われています。この貴重な里山の保全を進めるため「ひの緑のトラスト」が設立され、募金活動を行っています。

環境情報センターでは「ひの緑のトラスト」の事務局として、募金活動などを担当しています。市内の緑地保全のための募金にご協力をお願いします。詳細は環境情報センターまでお問い合わせください。



発行 日野市環境情報センター かわせみ館
〒191-0011 東京都日野市日野本町1-6-3
Tel/fax:042-581-1164
Eメール:kankyo@m2.hinocatv.ne.jp